

佐賀は、
ユニバーサルデザイン

県民運動

佐賀から日本のやさしさを ~広げよう、ユニバーサルデザイン

ユニバーサル
デザインとは?

誰にとっても違和感なく、自然に使えるかたちやサービスを追求すること。その原点は、優しさや思いやり。身近な場所に、ユニバーサルデザインは広がっています。

13年度テーマ
人づくりへの
アプローチ

誰もが輝き、暮らしがやすい社会の実現へ向け、官民一体となった県民運動「佐賀から日本のやさしさを~広げよう、ユニバーサルデザイン」を展開しています。3年目となる最終年度のテーマは「人づくりへのアプローチ」。「優しさ」「思いやり」などUDの土台となる理念を掲げて活動する団体・個人の取り組みにスポットを当てます。

卓球バレーの普及に奔走



通常はハイハイすに座ってプレー。車いすの場合は卓球台の下に潜り込ませる

レベルアップを目指し3チームが集まった卓球バレーの練習会=佐賀市の県勤労身体障害者教養文化体育館

障害の有無や年齢にかかわらず、誰でも参加できるスポーツとして注目を集める球技「卓球バレー」を県内で普及させようと、西九州大学ESRDサークルの学生が県内の福祉施設などを飛び回っている。障害がある人の中には、自分のできる範囲で体を動かし、仲間とともにプレーする喜びを実感した人も多く、出張体験会の会場は自然と笑顔に包まれる。

今月21日、佐賀市の県勤労身

体障害者教養文化体育館。卓球台をコートに見立てて、バレー

ボールに準じたルールで得点を

競う「卓球バレー」の練習会が開かれた。ESRDの学生たちが審判を務め、車いすの人や片手

の不自由な人、それに健常者か

ら3チーム、その中の二つ「かちがらす」(佐賀市)のメンバーは、

県立地域生活リハビリセンター(佐賀市)に通っていた人やその家族たちだ。

約2年前 ESRDの学生たちは同センターを訪れ、卓球バレーを紹介する機会を得た。

ルールを説明し、実際にプレーを披露して見せた。「最初は、こんなスポーツもあるんだ」という程度、それがみるとうちに

はまつていった。重度の人も、力

の弱いにもボールを受ける

など、それぞれ役割がある。あ

る意味で「ハンディがない」とこ

ろが魅力」。自身も障害がある

リーターの本山晃さん(59)は卓

球バレーとの出会いを教えてく

れた学生たちに感動する。

6人が力を合わせて、いろいろな意味で「ハンディがない」とこと

んな光景を見るところからもう段々と笑顔が広がっていくそ

れくなる」。卓球バレーの普及

に力を入れてきた前部長の同大

4年生音嶋里歩さんと、45人の

部員を引っ張る3年生の現部

長柳田菜摘さんがやりがいを

感じる瞬間だ。

考えると、そぞろ限界にきて

いるが、その一方で、卓球バレー

を独自に楽しむグループが増え

てきたのが頼もし。今後は、こ

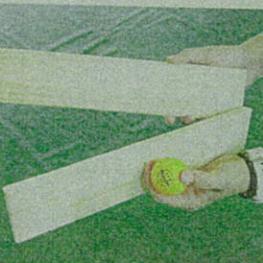
うした人たちと一緒に出前教室

1チーム6人、それぞれに役割

卓球バレーは1チーム6人で卓球台を囲み、木の板を使ってボールを3打以内でネットの下から相手コートに打ち返す球技。ルールはバレーボールとほぼ同じ。フロッカーやレシーバーなどのポジションがあり、障害の種類や程度に合わせて、一人一人に役割がある。

プラスチック製のボールの中には鉛か入っており、強めにたたいても飛び跳ねることかないように工夫されている。転がる際には音が発せ、目の不自由な人でも確認できるように工夫されている。

29日にはムツコロウ杯卓球バレー交流大会が佐賀県勤労身体障害者教養文化体育館(佐賀市)で開かれる。大分、宮崎、熊本、山口県の9チームを含めた全22チームが参加予定。



ラケットの一边は30mm以下で持ちやすいうように加工が可能。ボールはピンポン球の中に鉛が入っている

大きな文字で読みやすく

これもユニバーサルデザインのひとつです。

一つの卓球台を囲んで白熱のラリーを繰り広げた。

リ

ニュースポーツで生きがいを

派遣数増え
年100回超

卓球バレーの評判が広がるにつれ ESRDへの派遣要請も年々増えている卓球バレー以外のニュースポーツを含めると、昨年度だけで公民館や地域のイベントなど108回の出張体験会を実施した。学業との両立を

足したと振り返る。

グラウンドゴルフや卓球バ

レーベン、ボッチャ...年齢や性別障

害者の声を聞き、それなら

ば誰もが気軽に楽しめる

ニュースポーツを広めようと充

足したと振り返る。

グラウンドゴルフや卓球バ

レーベン、ボッチャ...年齢や性別障

害の有無を問わずに楽しめる

ニュースポーツは年々、普及して

いる ESRDの学生たちは訪

れる施設の要望やベース対

象者の年齢層などを考慮し、多様な種目の中から

紹介する競技を決定、中

でも力を入れてきたのか

卓球バレーの普及だった。

「ラケットでボールを

受けける、打つ、打つことは

できないか受けることは

できる人もいる。障害に応じてどのボーションに

座るか話し合いかーチーム

ニュースポーツ体感しよう
来月26日にESRD大会

西九州大神培キャンバスで10月26日、「エンジョイ・スポーツ&レクリエーションデー(ESRD大会)」が開かれる。16種のニュースポーツのラリーテーブルなどを予定している。

同大ESRDサークルが主催。グラウンドゴルフや卓球バレーのほか、空き缶を倒さずに積み上げる空き缶積みなどの競技を楽しめる。また、車いすテニス、車いすバスケットの体験会もある。JR神崎駅から同大まで無料送迎バスが運行。当日参加で受け付けるが、団体の場合は事前に問い合わせる。

午前9時からと午後2時から。室内靴が必要。雨天時は隣接のB&G海洋センター体育館で開く。問い合わせは同大ESRDサークル、電話0952(37)9281へ。

次回は10月27日(予定)に掲載します

県民運動「佐賀から日本のやさしさを」推進委員会事務局(佐賀新聞社営業局内) ☎ 0952(28)2141 http://www.saga-s.co.jp/ud/

佐賀新聞

検索